



TITLE:

数学者人名辞典のデータベース について(数学史の研究)

AUTHOR(S):

田村, 三郎

CITATION:

田村, 三郎. 数学者人名辞典のデータベースについて(数学史の研究).
数理解析研究所講究録 1997, 1019: 70-76

ISSUE DATE:

1997-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/61653>

RIGHT:

数学者人名辞典のデータベースについて

田村 三郎

Saburo TAMURA

大阪産業大学

この数学者人名辞典は、古今東西の数学者や数理科学者を集録してある。すなわち、ヨーロッパ中心ではなく、アラビア、インド、中国、朝鮮および日本の数学者や数理科学者も数多く集め集録した。そのため、既刊の数学者人名辞典には含まれていない数学者を多く含んでいる。また、ヨーロッパ系の数学者についても、これまでの辞典には含まれていない人名を、現代だけでなく古代、中世、近世の数学史、科学史資料の中から選び集録した。その意味ではこの数学者辞典は、日本のみならず外国のものにも見られないほど充実した内容をもっていると自負している。

凡例

項目の選択は、主として数学者としたが、近代以前においては、天文、暦学、測量、力学、光学、物理学その他の数理科学的分野と、純粋数学との区別をつけることは極めて困難であるので、数学者人名辞典とはいっても、広く数理科学者を取り上げてある。（18世紀以降については、主として数学者に限定されている。）

見出し語の人名の表記は、文献番号10「岩波 西洋人名辞典」の表記法を基本とした。西洋以外の人名についても、日本語カタカナ表記とし、中国人、朝鮮人、日本人については、漢字を（ ）の中に表した。さらに中国語読み、韓国語読みを別名としてカタカナ表記した。NAMEとしてのローマ字表記も、西洋については文献10の通りを原則とし、中国人名についてはウェード方式、朝鮮人名は現代韓国での発音を標準とし、マッキューン・ライシャワー方式によった。（中国人表記については大川俊隆氏、朝鮮人表記については藤永壮氏に、お世話になった。）

所属国については、出生国または主たる活躍国の現代の国名としたが、（ ）内に当時

の王朝名を付記したものもある。しかし、使用言語（ギリシア語、ヘブライ語、アラビア語など）が、その人を特徴づけるのに適当と思える場合には、その言語を所属国として表記した。出生地、活躍地、没地などは、当時の地名とし、それらの国名は現在の国名とした。説明文は数学や数理科学関連の内容のみとし、それ以外の業績や学派、宗教（キリスト教各派、ユダヤ教、イスラム教など）については、職業・経歴の欄に記入した。

配列は原則的には生年順（仮生年順）とし、生年が不明で没年の判明しているものは、没年から60年前を仮生年とした。生没年が不明で活躍年の判明しているものについては、活躍年をアクメ（40歳）と考え、活躍年の40年前を仮生年とした。おおまかな活躍年しか分からないものについては、次のように活躍年を決めた。

（ア）およその活躍年が n 世紀のものは、 $100n - 50$ 年を活躍年とする。

（イ）およその活躍年が n 世紀前半のものは、 $100n - 75$ 年を活躍年とする。

（ウ）およその活躍年が n 世紀後半のものは、 $100n - 25$ 年を活躍年とする。

（エ）およその活躍年が n 世紀初めのものは、 $100n - 90$ 年を活躍年とする。

（オ）およその活躍年が n 世紀終りのものは、 $100n - 10$ 年を活躍年とする。

$n < 0$ のものは、上の n を $n + 1$ として計算すればよい。例えば、およその活躍年が -3 世紀前半なら（イ）の式の n を $-3 + 1$ として計算すれば、活躍年は -275 年で、仮生年は -315 年となる。

この人名事典は、次のような形式で印刷されている。

名前／別名 Name

所属国 職業・経歴

出生年（出生地）～活躍年（活躍地）～没年（没地）

説明文 文献番号

ただし、生年、生地、活躍年、活躍地、および没年、没地が不明の場合、その所に空白を入れる。例えば、およその活躍年しかわからないイムホテプは ～-2650～ となるし、生年と生地しか分からないカリッポスは -370(キュジコス) ～～ と表記される。また、生地と没年しか分からないエウパリノスは (メガラ) ～～-522 と表される。（／はいずれかを示す記号である。）

この人名辞典は、上のような印刷上の形式とは別に、コンピューター内部には、次のように保存されている。（このデータベース作りについては、田口政行・七海の父・娘および田村直之に世話になった。）

名前：

Name：

別名：

所属国：

職業・経歴：

ランク：

生年 1 : 生年 2 : 生地 :
 活躍年 1 : 活躍年 2 : 活躍地 :
 没年 1 : 没年 2 : 没地 :
 仮生年 : 出生国 : 活躍国 :
 説明 :
 キーワード :
 文献 :

このため、さまざまな検索が可能である。たとえば、人名のアイウエオ順、ABC 順の配列、仮生年順（生年順）、活躍年順、没年順に並べることもできるし、所属国、出生国、活躍国などを、まとめて表示することもできる。（生年、活躍年や没年の 1、2 は、異説がある場合、有力な説を 1 に記入した。）さらに、地名は主として当時の地名が記されているが、地名検索によって現在の地名その他の情報を得ることができる。また、キーワードによって、該当する数学者が検索できるし、必要ならキーワードの解説も見ることができる。個々の数学者の説明は簡略にしたが、文献を番号によって表示したので、詳しい内容はそれら文献によって得られるように配慮してある。さらに、数学者の重要度に応じて、A、B、C、D の 4 段階に類別しておいた。A ランクは原則的に文献番号 16 の 5 巻の「数学者編」か、文献番号 21 の項目中に含まれている数学者とした。また、文献番号 17、20 か 8、21 の年表中のいずれかに含まれる数学者を原則として B ランクとした。（非ヨーロッパ系の数学者については、特別な配慮がなされている。）それ以外の数学者および主要な数理科学者は C ランクとしてある。最後の D ランクは残りの数理科学者たちである。ただし、説明文の長さは、このランクとは無関係である。（各項目について、これらすべての文献を調査しているわけではないので、参考文献番号はその一部であることを、ご了解いただきたい。）

参考文献番号は次の通りである。

辞典

0. 「世界大百科事典」（平凡社）、1964—68。
1. 「ブリタニカ国際大百科事典」（TBS ブリタニカ）、1972—75
2. 「ブリタニカ国際大百科事典・小項目事典」（TBS ブリタニカ）、1972—74
3. Meyer
4. Lareuse
5. 「科学史技術史事典」（弘文堂）、1983
6. Bynum etc. "Dictionary of the History of Science", 1981
7. 「岩波 数学辞典 第3版」（岩波）、1985

8. 「新数学事典」(大阪書籍)、1979。「数学事典」(大阪書籍)、1950。
9. 「幾何学大辞典」1—6、補巻I—II(槇書店)、1971—1993。

人名辞典

10. 「岩波 西洋人名辞典・増補版」(岩波)、1981
11. 「新版世界人名辞典・西洋編・増補版」(東京堂)、1993
12. 「新版世界人名辞典・東洋編・増補版」(東京堂)、1994
13. 「世界伝記大事典・世界編」(ほるぷ)、1980—81
14. 「科学技術人名事典」(共立)、1971
15. 「科学技術人名事典」(北樹出版)、1987
16. 「世界科学者事典」(原書房)、1987
17. "Dictionary of Scientific Biography" 1-15, 1970—1980
18. "International Biographical Dictionary of Computer Pioneers", 1995
19. 「天文学人名辞典」(恒星社)、1983

数学者

20. 「世界数学者人名事典」(大竹出版)、1996
21. 「100人の数学者」(日本評論)、1976
22. ベル「数学を作った人びと」上下(東京図書)、1976
23. ホリングデール「数学を築いた天才たち」上下(講談社)、1993
- 24.
25. ドレイク「ガリレオの生涯」1—3(共立)、1984
26. 田村「フランス革命と数学者たち」(講談社)、1989
27. オーセン「数学史のなかの女性たち」(文化放送)、1977
28. 「数学人群像」(近代科学社)、1987。
- 29.

科学史・数学史

30. ダンネマン「大自然科学史」1—12、別巻(三省堂)、1977—1980
31. 「講座 科学史」1—4(培風館)、1989
32. 「数学の歴史」I—X(共立)、1979—
33. カジョリ「初等数学史」上下(共立)、1970
34. Smith "History of Mathematics" 1,2. 1923. ; スミス「数学史」(紀元社)
35. コールマン等「数学史」1、2(東京図書)、1971
36. ボイヤー「数学の歴史」1—5(朝倉書店)、1983
37. 「数学史」(筑摩書房)、1975

- 38. Cajori "A History of Mathematical Notations" 1,2. 1928—1929
- 39. Cantor "Vorlesungen ueber Geschichte der Mathematik" ,I-IV, 1880—1908

古代・中世

- 40. 「古代ギリシア人名事典」 (原書房)、1994
- 41. ラエルティオス「ギリシア哲学者列伝」上中下 (岩波)、1984
- 42. ヒース「ギリシア数学史」I, II (共立)、1959
- 43. ウアルデン「数学の黎明」 (みすず)、1984
- 44. 平田「科学の起源」 (岩波)、1974
- 45. 「古代ローマ人名事典」 (原書房)、1994
- 46. サートン「科学文化史」I—V (岩波)、1951—1966
- 47. クロムビー「中世から近代への科学史」上下 (コロナ社)、1962
- 48. 伊東「近代科学の源流」 (中央公論)、1978
- 49. 「ユークリッド原論」 (共立)、1971。

アラビア・インド

- 50. 矢島「アラビア科学史序説」 (岩波)、1977
- 51. 矢島「アラビア科学の話」 (岩波)、1965
- 52.
- 53. Rashed
- 54. "Encyclopedia of the History of Arabic Science" 1-3. 1996
- 55. 科学の名著「インド・天文学 数学集」 (朝日出版)、1980
- 56. 林「インドの数学」 (岩波)、1993
- 57. 楠葉・林・矢野「インド数学研究」 (恒星社厚生閣)、1997
- 58. Amma "Geometry in Ancient and Medieval India" 1979
- 59. Bag "Mathematics in Ancient and Medieval India", 1979

中国

- 60. 科学の名著「中国・天文学 数学集」 (朝日出版)、1980
- 61. ニーダム「中国の科学と文明」 (思索社)、1991
- 62. 銭宝宗「中国数学史」 (みすず)、1990
- 63. 薮内「中国の数学」 (岩波)、1974
- 64. 薮内「中国の科学文明」 (岩波)、1970

- 65. 杜石然他著「中国科学技術史」上下(東京大学出版会)、1997
- 66. 李巖「中算史論叢」1—4 (商務印書館)、1931
- 67. 李人言「中国算学史」 (台湾商務印書館)、1937
- 68. 李兆華「中国数学史」 (文津出版)、1995
- 69. 薄樹人「中国天文学史」 (文津出版)、1996

朝鮮

- 70. 金哲央「朝鮮名士物語」 (朝鮮青年社)、1984
- 71. 李殷直「朝鮮名人伝」 (明石書店)、1989
- 72. 「韓人名大事典」 (新丘文化社)、1967
- 73. 「韓国文化史大系」1—7 (民族文化研究所)、1968—1972
- 74.
- 75. 洪以燮「朝鮮科学史」 (三省堂)、1944
- 76. 田村専之助「東洋人の科学技術」 (淡路書房)、1958
- 77. 全相運「韓国科学技術史」 (高麗書林)、1978
- 78. 任正赫「朝鮮の科学と技術」 (明石書店)、1993
- 79. 金容雲他「韓国数学史」 (楨書店)、1958

日本

- 80. 「日本人名大事典」 (平凡社)、1937—1938
- 81. 「大日本人名辞典」 (講談社)、1937
- 82. 「世界伝記大事典・日本編」 (ほるぷ)、1982
- 83. 「明治前日本数学史」1—5 (岩波)、1954
- 84. 遠藤「増修 日本数学史」 (恒星社厚生閣)、1960
- 85. 林「和算研究集録」上下 (東京開成館)、1937
- 86. 「江戸初期和算選書」1— (研成社)、1990—
- 87. 「小倉金之助著作集」1—8 (勁草書房)、1973
- 88. 小松「幕末明治初期数学者群像」上下 (吉岡)、1990—1991
- 89. 「日本の数学100年史」 (岩波)、1983

近代・現代

- 90. 中村「数学史」 (共立)、1981
- 91. 中村「近世数学の歴史」 (日本評論)、1980
- 92. 高木「近世数学史談」 (共立)、1933
- 93. ヴェルデン「代数学の歴史」 (現代数学社)、1994
- 94. 「近藤洋逸数学史著作集」1—5 (日本評論)、1994

- 95. 井関他「近代数学」上下（日本評論）、1977
- 96. モンナ「現代数学発展史」（東京電気大）、1993
- 97. デュドンネ「数学史」1—3（岩波）、1985
- 98. 井関他「現代数学」（日本評論）、1977
- 99. クライン「19世紀の数学」（共立）、1995

1997年5月現在、1599年生まれの数学者まで入力してある。大阪産業大学の研究論集に印刷発行後、多くの識者の方々のご意見をお聞きした上、パソコン上のホームページにデータベースとして開放する予定である。